



高知発の介護漫画『ヘルプマン!』を描かれた、  
くさか先生と今まさに介護福祉士を目指して勉強に励む先輩2人が  
介護について語り合いました。

# 介護の仕事には生きるヒントがいっぱい。 「じいちゃんばあちゃんの懐に飛び込め！」



## 介護って面白い! 『ヘルプマン!』が伝える 仕事の魅力

**川上:** 私が介護の道を目指したのは高校1年の時。祖父が病気で入院して元気なさそうだったんですけど、私がお見舞いに行くと顔をグシャッとして笑ってくれて。会いに行くだけでこんなに笑顔になってくれるんだ、と感動して、少しでもお年寄りの力になればと思ったのがきっかけです。ちょうどその時に『ヘルプマン!』にも出会いました。在宅介護のことや認知症のことなど、いろんな視点からすごく詳しくリアルに描かれていたので、勉強になることがたくさんありました。大変な中でも感謝の言葉を利用者さんからもらったり、人生と一緒にくっついたりすることが、やりがいや楽しみにつながるんだということを知ることができました。

**青木:** 僕は、高校2年の時に校外実習で特別養護老人ホームに行ったんですが、座っている方を移動させるお手伝いをした時に、どうすればいいかわからなくてはやい思いをしたことがきっかけです。それまでスポーツレーナーになりたかったんですけど、その2ヵ月後くらいに学校の図書室で『ヘルプマン!』を読んで、介護の仕事はスゴイと思って進路を変えました。それまでは、体力的にキツくて辞めていく人が多い、というイメージでしたが、読んでみると、主人公の百太郎は他の介護福祉士と違う柔らかな発想を持っていて、持ち前の明るさで利用者さんを笑顔にしていって。とても魅力的だったし、自分もそうなりたいと考えるようになりました。

**くさか:** 私はこの作品で介護を描いているつもりはないんですよ。人が困ったり、負けそうになったり、そんな時にどう気持ちが変わるか、そこからどうやって希望を持って立ち上がるのか、ということに興味があって。一生懸命生きてる人を応援したいっていう気持ちで漫画を描いている。それを表現するのに適した舞台は、と考えたときに介護の現場があったんです。でも介護の仕事がこんなにもおもしろいものなんだっていうことは取材するまで知り

ませんでした。世間のイメージは、おむつを変える肉体労働ぐらいの認識しかないかもしれないけど、それが嫌。介護の仕事は、自分のアイデアや知恵を使ってその場をより良くしていく仕事。体だけじゃなくて頭を使う仕事なんですよ。すごくクリエイティブな仕事だということです。やりがいもあるし、本当におもしろい仕事だぞということを伝えたくて描き始めました。

## 介護って面白い! 『ヘルプマン!』が伝える 仕事の魅力

**くさか:** とところで、2人は何か趣味はありますか？

**青木:** 僕はバイクや車が好きです。あとは釣りも好きで、自分でさばいて食べたりもします。

**川上:** 私はずっとバスケットボールをしていたので、運動は全般的に好きです。今も休みの日にはフットサルや水泳など、体を動かして楽しんでいます。

**くさか:** おお、それは心強い！介護の仕事はそういう好きなことに夢中になる感覚、どうしたら楽しめるかという感覚を職場に持ち込んでいい仕事なんですよ。あるケアマネージャーさんが、脳梗塞で麻痺がある方のお宅に訪問したら、エレキギターが置いてあった。何の質問をしてもうまく答えられなかったのに、ギターの話をしたら、その瞬間生き生きとしゃべり出した。その時、もしギターに詳しくたらすごく話が弾むと思うし、他にもバイクやスポーツが好きだという人もいると思う。自分の趣味が助けになるんです。だから、技術や知識を持った上で、人間の幅をどんどん磨いてほしいですね。あと、「介護ってカッコいい」と言ってもらうためにはビジュアルも大事。普段からキラキラしている人であってほしい。そのためには1人で悩まず、「私、未熟者です！」って堂々と言うぐらいがいい。利用者さんから見たら孫のような年齢の若者が失敗しても当たり前。立派にやらなければというよりは、裸のままを見てもらおう、鍛えてもらうという感覚でいいんじゃないかな。見えないようで皆見てるんですよ。仕事でミスをして泣きそうになっていた人のところに、認知症でいつも施設の中をうろうろするだけの利用者さんがいつのまにか来て、背中をぼんぼんたたいてくれたっていう話もある。皆、「若者よ、頑張れ〜！」って思ってくれてると思う。

**川上:** 私もちゃんと相手と向き合える人になりたい。その方の過去や今の状態、趣味、これからどうしたいかなど、いろんなことを知った上で信頼関係を築ける、元気で明るい『ヘルプマン!』の百太郎のような介護福祉士になりたいです！

**青木:** くさか先生が取材先でいるんなことを感じたように、僕もそういう感性を大事にしていきたいなと思いました。まずはちゃんと知識を身につけて、現場でいろいろな経験を積んで、利用者さんとずっと一緒に歩んでいけるような介護福祉士になりたいです。そして最終的な目標は今の介護のやり方を変えていけるような人材になりたい。例えばもっと低価格で、乗り心地のいい車イスを作れないかな、とか。夢はいっぱいあります！

**くさか:** 頼もしい！ぜひオシャレな車イスとかも作ってほしいですね。介護の仕事はささやかなようにだけど、本当に素晴らしい仕事。理想通りにいくことは少ないかもしれないけど、失敗しながら、人として豊かになっていく過程を介護の中で体験してほしいと思います。



高知福祉専門学校  
介護福祉学科1年  
**青木 祐人さん**  
Aoki Yuto

漫画家  
**くさか里樹先生**  
Kusaka Riki

平成福祉専門学校  
介護福祉学科1年  
**川上 夏希さん**  
Kawakami Natsuki

# 人として豊かになっていく過程を介護の中で体験してほしい